

55	もう少し時間をとってお話が聞きたかった。高齢者（83歳）なので早口にはついていけなかった。残念です
56	県立大学の先生方の講演は実践に即したものでとても良かった。コメンター慎先生のご意見はとても参考になりました
57	時間が少なかったが内容は良かった
58	やる気が出てきた。73歳の鼻たれ小僧だがぼつぼつやろうと決意あらたにした
60	社会参加をするには健康が大切です。慎先生のお言葉大変良かった（ブサン大学の先生のことば）（人の付き合いふれあいの大切さ）
61	横文字がわからないときがある。日本人は毎日連絡とらないから「オレオレ」事件が起きるのはあたりまえだと思った。自分で健康管理をしていかなければならないなと思った
63	三重県からの実行体験は感銘させられました。今の日本、間違いだらけの中で本当の姿に気づいたところが、また、役所指導ではあるが実施に踏み切ったところが良い

問4: 要介護高齢者に対する取り組みについてはどのように思われますか

2	介護保険と自助努力を組み合わせる専門家の役割、必要性を感じました
5	介護センターに入居したいと思っても、即入ることができず予約を入れて順番を待つという現実です。施設の入院にしても年金でまかなえる程度で入所、入院ができれば良いと思います。
6	整備を急ぎたい
7	お互いに高齢化していく中で助け合う心を忘れては成り立たないと思います。しっかりした理念で取り組みたく思います
8	要介護高齢者とはいかなる状態の人かわからない
10	介護保険の内容がまだ良くわからない高齢者がいるようである
11	自己満足にならないよう幅広く全国の事例を収集研究するべき
12	介護を嫌う老人がいるが、上手に利用し、生涯現役を続けていく上でもっと進めていきたい
13	各先生方のご意見どおりと強く感じました
14	自分自身がどのような支援体制を受けるとよいか研究して取り組むことが第一と思う。障害に対して、努力を自身でしなくてはいけないと思う。
16	ケアマネージャー質の向上、活発化が鍵を握っていると思う
24	夜間に各戸をまわってくださるお医者さんもらっしやって、とても喜んでいる人たちも近所にいます。有難いことです。
26	介護予防に力を入れることはまったく同感。そのためのシステムづくりを家族や地域社会が元気の出せるような政策が必要。要介護者には適切に介護保険を活用して不安のないような老後対策が必要。
28	徐々にうまく進んでいると思います。
30	家族の負担が大きすぎる
32	要介護の申し出をしないと認定されない。高齢の人はどのくらいで要介護になるかや、申し出の方法もよくわからない人がある。年よりでもわかりやすい言葉で区長に知らせる、チラシを出して回覧するなどしてほしい。
37	地域の人に取り組むのも大切ですが、都会で暮らしている子供も少し考えるべきです。(自分の生活もあることですが)
38	施設に入っている方は、介護はよくされていると思う。
40	介護サービスだけではまかなえない部分、家族でしか満たせない心の部分や地域とのかかわりを考えて行きたい
41	大島町の要介護の取り組みはとてもよいと思います。早い手配に感動しました。
42	いまの要介護者は依存が強い方が多いと思うので、自立性が出るような声かけ、サービス提供を行っていく必要があると思いました。
44	安立先生のおっしゃった専門家、住民が求めている仕組みを開発していきたい。要介護高齢者を地域でみんなで支えられる大島になるといいな。介護保険サービス事業だけでは足りないのは「話し相手」。独居、日中独居、寝たきりの人は一日ひとこともしゃべらない日があり、気がめいる傾向にある。ボランティアの話し相手、せ年門下がいないかな。
45	次項に記入させていただきました
46	よく行われていると思います
47	現状のままで良い
49	特別養護老人ホームの絶対数が少ない。独居の老人が急に在宅生活が不可能になっても、入所は無理
50	自分がもし対象となったら、と考えてみた。何を求めているのか、何をしたらよいのか、生活環境の違いがあるので、ケースバイケースで考えたらよいと思った
51	要介護高齢者を在宅で看るのは難しい。選べるといっても施設は不足
53	相互扶助が大事
54	老人が老人を介護する考えもよいと思います
56	ボランティアの活用ももっと増やすと良い
58	やれる支援をしていこう
60	不明です。今のところ関係がないのですが
61	地域の人との連結と手助けが必要だと思う

63	世の中、介護（保険）が大手を振って一人歩きしているがでしゃばり過ぎず控え目に謙虚に存在し、人助けのために働かせていただいていると思える奉仕の取り組みをして頂きたい
64	要介護者へのリハビリは絶対必要と思う。廃校あと等を利用し、サロンを併設して、実施した方がいい。提案したがわかってくれない。医療予防、介護予防で経費が大幅に削減できる

問5: 虚弱高齢者に対する取り組みについてどのように思われますか

1	家族との同居の必要性を感じた。施設にのみにたよることなく。
5	家族の小規模化により家庭で介護することは難しいと思います。在宅サービスをもっと利用すれば良いと思うが、やはり施設に入るのが一番良いと思う。
6	病院内に住宅を作る
7	地域をあげて国をあげて介護していただけるように頂きたい
8	地域住民による助け合いがなければ行政も手を伸べるよう指導しなければだめだ。行政は〇〇〇(判読不能)で実行していない
10	郡内はまだ不十分と思う
11	おせっかいにならないようなケア、見守りに苦勞しています。勉強会やケーススタディーがあるとよい
13	1日でも短い虚弱高齢者でありたいと強く自分にいい聞かせました
14	交通も不便で医療面で不安の高齢者が多いように思う。田舎に住居を持つとお店がないので栄養面で物品の入所が難しい
17	地域は相互扶助精神が強いが、向こう3軒両隣の見守りがこれから大切になると思う。必要ならば、関係機関の方への連携がとれるようになれば。
18	介護保険を最大限に利用してほしい
22	虚弱高齢者への支援は自立支援の視点が必要。介護保険等社会資源は充実しつつある中で、それをどう利用するかということについては十分な理解がされていない。専門家がさらに勉強することは大変重要であるし、社会全体が成熟する必要もある。
24	都会へは行きたくないと言いながら、仕方なく子供のところへ行く人もいるようで、これも仕方ないかと思う。
26	病気になったときに安心のできる島づくりを目指してほしい。
32	老齢介護の場合かなり負担になります。ヘルパーの週3回の利用や医療器設備などの援助により大変助かっています。給食サービスが独居の人に限られているので、介護3~4.5の場合範囲を広げて頂きたい。食事が時間を多くとられています。
33	体の弱い方は大変お気の毒だと思います。仕方ない事ですが早く元気になられますようお祈りいたします
37	サービスは良くなっている
40	地域の見守り体制、また介護サービスに落とされぬ健康づくり、地域でのふれあい活動が大事だと感じています
41	訪問ヘルパーに親切なお世話を頂くのが助かります。
42	サービスが必要なら適切なサービスを受けられるような地域作りを促進していく必要があると思います。
44	出前の介護予防が必要だと思う。前項にも記述したが、話す、笑うこと少ない高齢者、足が悪くてステップの高いバスに乗れなくて、遠くには行けない。だから出前をしましょう。慎先生もおっしゃいました。多くの人とのつきあい、通勤…。
45	先月実父を失いました。(東和町)2年前に倒れたとき、島内の病院には本格的なリハビリ施設がないので広島市の専門病院でリハビリに取り組みました。そうしなければ、すぐにでも「寝たきり」になってしまうと思ったからです。その病院は6ヶ月しか入院できないのですが、リハビリ内容が充実していてすばらしいものでした。「クオリティオブライフ」をととても大切に下さって、めきめき体の自由を取り戻しました。とても「人間らしい」入院生活を送れたと思います。6ヵ月後、さざなみ苑でお世話になりましたが、スタッフ数がとても少なく、すぐにベッドに横たわる時間が多くなり、恐れていた「寝たきり」になってしまいました。島内に同じような病院がないのが残念でなりません。
46	まだ細部にまで行き届いてないように思います。もっと小さな集落まで出かけて調査してください
47	一人暮らしの老人が多いので、まわりの人の接し方が大事だと思います
49	行政的または民間及び自主的な取り組みか、質問が不明
50	小地域で見守っていききたい
51	問いが一括になるので答えも難しい。自然で良いと思う。あまりあれこれ考えても仕方なし
52	地域でいつまでも暮らせるため〇(判読不能)やかなサービスを受けられるよういろんなサービスを知るとい事が大切です

53	体の不自由な方々には声をかけ合ってお話を聞いてあげる相手をさせて頂けたらと思うのです。痛みのわかるような人になりたいです
54	保健福祉事業に力を入れて頂きたい
58	やれる支援をしていこう。関心を持つこと
60	あまりわかりませんが各町とも恵まれているように思います
61	もっと専門家の人が二人暮らしや一人暮らしの人たちのお年寄りのところにたずねて行ってほしい（保健師をふやす）
63	4と同じでしょう

問6: 元気な高齢者に対する取り組みについてはどのように思われますか

1	元気な高齢者は体力、知力の低下した高齢者に力を貸す必要があること。
5	地域の人のやさしい言葉と手助けが必要と思う。いきいきふれあいサロンに進んで参加する。
6	
7	健康の努力をしっかりと生涯現役のつもりでお互いに助け合いたい
8	仕事と社会活動をさせるようにできるようにしなければならない。行政の力を必要とする
9	南紀の具体的取組について参考になった
10	地域住民のモデルとなって活動してほしい
11	楽しみの場の提供、多様性、選択性、集まる場所の利用料を徴収するのは？
12	介護を遅らせる取り組みになって、大変良い
13	1日でも長く自己満足を追求していける取り組みをケアして行くことが最も大切
14	健康増進を希望にしても高齢者にふさわしい場所があまりないように思う。ふれあいの場が高齢になるほど少ない。老人にも働く場がない。高齢者対象の働く内容を作るともっと生きがいを感じると思う
16	デイサービスの回数を増やして誰でも参加のできるゲーム等を取り入れてやってほしい
17	生きがいづくりとして、就労の場がほしい
18	自立できることはできるだけさせ、近所の方々ののぞき見の必要性あり。それと介護介護にたよらないこと。
19	地域内での互助システムをどう組み立てたらよいか事例があれば聞きたかった。地域内でのシステム作りを急がねばならない
22	年金制度への不安、不況などの理由でのリストラ等、高齢者やその直前にいる方の状況は厳しい。生涯現役とは仕事や生きがい等いつまでも元気でいまいる地域で自立して生活していけることだと思う。そのために何をすべきか行政と一体となって観ゲル必要がある。
24	元気な者同士、差さえあって自立しながら楽しく過ごせる工夫をしていきたいもの。
26	就労を希望する高齢者には、その人にふさわしい場を提供できる仕組みをつくることを望みます。
28	リーダーの養成が必要（いわゆる専門家）
29	健康予防、私たちに何ができるのか、それぞれの立場で話し合いが必要かと
30	できることからやりましょう
31	もっと色々な仕事やボランティア活動をされたら良い
32	かんころ農園に通っている老人の意欲を増すようにいろいろ考えていただくと、やめていく人が減少するのではないかと思います。（橘町）
33	百近くになられましても元気で散歩などしておられたり元気な方は歌をうたわれたり楽しく何やかやしておられ、大変良いことだと思っています。
37	元気な人は気兼ねをしているのでもう少し考えてほしい
38	サロンに入っている方は楽しくみんなと会話をしたりして、また生きがいを求めて元気に暮らしているように思える。が、まだまだサロンに入るのをためらう人もあるように思えます。
40	この部分、健康づくりの部分、またボランティアをになう人という位置づけでしくみ作りや高齢者自身に問にかけて思いを聞いていくことがとても大事だと思う
41	老老介護で助け合って生きている。
42	人とのふれあいの場を持つことで、介護が必要にならないようにすることができるのなら、ふれあいの場をたくさんつくる必要があると思います。
43	豊富な人生体験、知識を生涯行かせる社会づくりは、ぜひすすめてほしいところです。役割のある生活こそが、元気な人生の「くすり」になると考えます。
44	前項、前々項と一緒に。「元気な人いらっしやい」を中央でやることも必要だし、地域に出前するのも必要。通勤、食事会（野菜多く、肉少なく）、調理実習、人とのつきあい、また、ボランティアをみんなですすめる活動も並行してやるといいですね。（働く場の提供）シルバー人材センターなど。
45	この島のネイティブの方々も、リタイア後この地に帰ってこられた方々も、びっくりするほどいろんなことに生活の楽しさを求めて活動していらっしゃるのに驚かされます。私は大きな都市に住んでいますが、地元の行事を大切に守りながら80～90才の方々が元気に常に集まっては何かをしている姿にうらやましさを感じます。都会の高齢者の方が淋しい思いをした人が多いと思います。

46	もっと色々な仕事やボランティア活動をされたら良い出かける機会をつくって頂きたい
47	虚弱高齢者の面倒をよく見ていると好ましい
49	問4と同じ
50	活用できるものは地域で役立ってもらいたいので、どんどん地域であるイベントなどには出席させ、生きがいを持ってもらいたい
51	自主自立で自然で良い。井戸端会議的なものがあれば、わざわざサロンを作らなくても良いのでは..
52	元気で楽しく暮らせる事が大切ですが、なかなか楽しく暮らすということは難しいと思われま
53	高齢者の方の益々の活動と参加と指導をも教授頂きたいと思います。高齢者は資格がある
56	自己責任に痛感いたしました
57	専門職の人たちはどうしても要介護中心に考えている傾向にあるが、もっと元気老人に目を向けて、元気老人→介護が必要な高齢者に対する対応を考えるように取り組む必要がある
58	老々介護をしよう
60	元気老人はこの上自己管理で健康を維持する事が大切と思う
63	あたたかく見守ってさしあげるのが第一と考える。困った人あれば助け合いましょう。余計な世話はやめましょう
64	パワーリハビリテーションも、医療予防、介護予防の活動が絶対必要です。(健康で長生きするために)自治体は紀南地域を早速まねしてでも政策転換をすべきと思う

問7:このフォーラムについて、お気づきになったことを自由にお書きください

1	新構想に基づいて、常に新しい取り組みをしていること。
2	全体的に時間が無く、話をもっと聞きたいところもあった。ハヤシダ先生の講演は資料がほしかった。通訳を通すため、結局何がいたいかわからないところが多々あった
4	あまりつめすぎではないか(柱が多すぎる)
5	いろいろなお話を聞き勉強になりました。
6	皆さんの考えておられることは良くわかるけど、経済がともなうのでそう簡単には解消できないと思う
7	世の中は生涯現役の人々が地域のため国のために必要だと考えられます。そのためにはそれぞれの立場で色々と研究し実践に移してゆくことだと思われました
8	専門職の方の考えは私らの考えとはマッチしない。言われていることはわかるけど、大島高齢者モデル居住圏構想というもの自体があるということが知られていないのでは
9	余裕を持った時間設定をしてほしかった。車社会で生活圏域が広域化されたが、このような井戸端会議がより必要になったと思う
10	良い参考になりました。私たちももう少し勉強しなくてはならないと思った。他の地区と交流をはかることが大切であると思う
11	司会、パネラーに対しモニター(スピーカー)が必要ではないか
12	高齢者に対して、地域の取り組み等々昔と比べると雲泥の差が感じられるほど、最近の老人は幸せと思います
13	紀南での取り組み紹介に興味があります。「安心」雑誌の新年号を求めるつもりです
14	非常に有意義な時間だった。大島ももっと高齢モデル地区として交通安全の道路の改善、特に町の裏通りを考慮するとよい。内容が充実していて心から感謝します。
19	今後の地域内での取り組みの方向がわかったように思った
20	大変有意義な話をさせていただいて良かったと思います。
23	自己管理をよくして、元気でいなければならないと思いました。
24	いろいろとよいお話がきけてよかった。送迎バスを出してくださったので参加できてよかった。
26	聞かせる内容の多い会でした。充実していました。ただし、フロアーの発言がありませんでした。
27	いろいろな話を聞け、勤務先の施設内に住まれている方々がその一瞬一瞬いこちのよい空間であるように(それぞれの方々の思いをくみとりつなげていけるよう)ふれあっていくためのアイデアがあり参考になりました。ありがとうございました。
28	大変有意義なフォーラムでした。久しぶりに胸わくわくのフォーラムでした。
31	記念講演が長すぎたことは残念(コメンテーター、パネラーの先生方のお話をもっとお聞きしたかったと思う) 一煙草、二小食、菜食
32	記念講演では後半が大変重要なことが多かったのに早口で行われたので各町の社協へハワイで行われている具体的なことをメモでもいいので知らせてほしい
34	もっと多くの方に集まってほしい
38	生涯元気ですごしていくには、自分で気をつけてできるだけボランティア活動に参加していきたいと思いました。
40	大変参考になりました。ありがとうございました。今後も継続して実施していただき、刺激を与えていただきたいと思います。
41	訪問ヘルパーの助けを受けながら、家族でお世話するのが幸せな老い方だと思う。前向きに多くの選択があることを知りました。
42	人とふれあうことは大切だと再認識しました。
43	地域づくりに大切なことは、仕組みづくり、プログラムづくり等、さまざまに考えられますが、最も必要なことは人づくりなのだと考えさせられました。
44	小川先生の進行、明快でこちよく周防大島高齢者モデル居住圏を感じ取ることができました。集大成のフォーラム、大成功ではないでしょうか。すばらしい先生方のお話が聞けて幸せです。ありがとうございました。
45	受付の学生さんが留学生でインターナショナルな感じでした。GOOD!!
47	大変有意義だった
49	記念講演はもっと皆に理解できる方法は無かったのか。せっかくハワイから来ていただいたのに、意味が理解できる時間的余裕もなく残念であった。パネラーの方の報告についての資料がほしかった

50	有意義であった
51	アンケートを求められると落ち着いて話が聞けない。何も参考にならなくて申し訳ありません。国際的な生き方のお話を聞いたのは良かった
53	Active Aging 生涯、障害-Agingに 生涯現役バンザイ 老後をしっかりと楽しみたいです。健康で夫婦で旅行出来、楽しみを一緒にしたいです
55	大変良い計画であった。映像など使って良かった。高齢者にはもう少しゆっくりした時間の設定を希望
56	すばらしいメンバーで大変有意義で良かった。また開いてほしい。行政、福祉の方の出席少ないのが気になりました
57	県下他地域でもフォーラムを開いてほしい
58	大変有意義であった。生き生きサロンづくりをやろう
60	時間的な面でメニューが多すぎたのではないですか？ハヤシタTカレン先生は大変熱心でしたけど小川先生の通訳がいまいちでした。時間的に無駄だったと思う
61	専門職の人にアンケート調査するのも良いが（なれもあると思うので）お年寄りの意見も取り入れたら良いと思う
63	話された諸先生方、それぞれに工夫を凝らした考えを発表、評論されたと思います。中には自分は偉い人なんだと印象づけて話される先生もおられましたが、なかなか行き着くところが見えてこない問題なのだなあと感じましたが、本当の事、大切な事を見抜かないと益々道がソレしてしまうでしょう。発言の多さに迷わされない事でしょう
64	何度か講演会、シンポに出席しました。しかしその後の活動を見てみるとほとんど活かされず、学習効果が出ていない。いいものは即導入すべきである。今回の紀南の政策転換はいいと思う。大島は長寿社会ではないと思う

～国際公開フォーラム～

健康長寿と生涯現役社会づくり

このフォーラムは、高齢化先進地域としての周防大島が、各地に先駆けて取り組んできた高齢者モデル居住圏構想の意義について研究者と専門職、行政職で話し合うものです。この構想が目指しているのは、世界保健機構 WHO が目指す理想でもあります。関係者にその使命を再認識していただき、今後の健康長寿と生涯現役社会づくりにむけての課題を共有することを目的として開催されます。住民の方々の参加も大歓迎です。

日 時：平成 15 年 12 月 1 日（月）午後 1 時 30 分～4 時 30 分

会 場：大島町文化センター TEL 08207(4)3800

山口県大島郡大島町大字小松地内（山陽自動車道「玖珂」I.C.から 30 分、大島町役場近く）

参加費：無料

午後 1 時 30 分～ 記念講演「ハワイのアクティブ・エイジング」



ハヤシダ, T.カレン（ハワイ大学大学院教授）

1945 年ホノルル生まれ。ハワイ大学ホノルル校を卒業後、ワシントン大学で社会学博士号を取得。ハワイ大学大学院社会学科教授のほか、同大学カピオラニ・コミュニティ校や、老人福祉施設センターでコーディネーターとして指導に当たり、またハワイの老人保健福祉に関する調査や指導を多数行っている。老年学、医療社会学専攻。

…周防大島と姉妹関係にあるハワイの事情を紹介

午後 2 時 20 分～ 基調報告「周防大島高齢者モデル居住圏構想の到達点と展望」

小川全夫（九州大学大学院人間環境学研究院教授）

…「高齢者モデル居住圏構想」の現状と今後の課題について提起

午後 2 時 45 分～ シンポジウム「健康長寿で生涯現役の地域づくり」

司 会：前田大作（ルーテル学院大学大学院教授）

パネラー：高野和良（山口県立大学社会福祉学部教授）

田中マキ子（山口県立大学看護学部教授）

杉谷俊明（三重県紀南地区健康長寿推進協議会事務局長）

コメンテーター

：安立清史（九州大学大学院人間環境学研究院助教授）

高林修二（周防大島高齢者モデル居住圏構想推進協議会事務局長）

慎雙重（プサン大学名誉教授、ウェスレヤン大学社会福祉学部教授）

主催：九州大学大学院人間環境学研究院共生社会学講座

後援：山口県・周防大島高齢者モデル居住圏構想推進協議会

問い合わせ：九州大学大学院人間環境学研究院・小川研究室（〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-19-1）

TEL / FAX =092(642)4151 ogawa@lit.kyushu-u.ac.jp

[執 筆 者]

- 小川全夫 九州大学大学院人間環境学研究院教授
第1章、第4章、第5章3、第7章1、2、3、第9章
- 前田大作 ルーテル学院大学名誉教授
第3章
- 山本圭介 山口県立大学社会福祉学部教授
第7章4
- 安立清史 九州大学大学院人間環境学研究院助教授
第5章1、2
- 高野和良 山口県立大学社会福祉学部教授
第10章
- 草平武志 山口県立大学社会福祉学部助教授
第2章
- 田中マキ子 山口県立大学看護学部教授
第8章
- 坂本俊彦 宇部フロンティア大学人間社会学部
第11章
- 福井祐介 九州大学大学院人間環境学研究院リサーチレジデント
第6章、第12章

平成16年3月

厚生労働科学研究費補助金
(政策科学推進研究事業)

高齢者モデル居住圏構想の評価研究

主任研究者 小川全夫
九州大学大学院人間環境学研究院
人間科学部門共生社会学講座
〒812-8581 福岡市東区箱崎6-19-1
TEL&FAX : 092-642-4151
E-mail : ogawa@lit.kyushu-u.ac.jp

別添2

厚生労働科学研究費補助金
政策科学推進研究事業

高齢者モデル居住圏構想の評価研究

平成 15 年度 総括研究報告書

主任研究者 小 川 全 夫

平成 16 (2004) 年 3 月

別添 2

厚生労働科学研究費補助金
政策科学推進研究事業

高齢者モデル居住圏構想の評価研究

平成 15 年度 総括研究報告書

主任研究者 小 川 全 夫

平成 16 (2004) 年 3 月

目 次

1. 総括研究報告書	1
高齢者モデル居住圏構想の評価研究 小川全夫	
(資料) 平成15年度高齢者モデル居住圏構想の評価研究総括研究報告書	別冊1
第1章 周防大島高齢者モデル居住圏構想と自治体合併	1
第1節 周防大島における広域行政の取り組み	1
第2節 合併と市町村地域福祉計画の策定	6
第2章 市町村合併と住民参加による福祉活動：社会福祉協議会を中心に	20
第1節 合併と社会福祉協議会	20
第2節 大島郡4町社会福祉協議会の課題	23
第3節 大島郡4町社協の地域福祉活動自己評価	25
第4節 合併と地域福祉活動	28
第3章 アクティブ・エイジングをめざして	30
第1節 active ageing とは	30
第2節 高齢者の社会参加、相互扶助活動の可能性	32
第3節 結語	36
第4章 周防大島高齢者モデル居住圏構想と生涯現役社会づくり	37
第1節 周防大島高齢者モデル居住圏構想と山口県の生涯現役社会づくり	37
第2節 世界のアクティブ・エイジング論	39
第3節 インアクティビティ状態からアクティブエイジングまたはアクティ ベーションへ	42
第4節 わが国の高齢化の特徴と生涯現役社会づくり	44
第5章 周防大島におけるソーシャル・サポート・ネットワーク状況	53
第1節 周防大島住民の人的ネットワーク	53
第2節 民間事業者による様々な高齢化対応活動	55
第3節 安心と助け合いのコミュニティ推進：地域通貨実験	60

第6章 地域情報化の2つの位相	63
第1節 「情報化」をめぐる検討	63
第2節 大島郡における「高齢者モデル居住圏構想」と「情報化」の進展	64
第3節 社会福祉協議会による「情報化」	70
第4節 むすびにかえて	74
第7章 高齢者モデル居住圏構想に対する山口県の評価	77
第1節 世界の動きと国の動きに対応した山口県の高齢者対策	77
第2節 山口県の「周防大島高齢者モデル居住圏構想」の評価	82
第3節 山口県の今後の周防大島高齢者モデル居住圏構想に対する取り組みの調整	84
第4節 地域の高齢化に対する山口県立大学の取り組み	86
第8章 サービス利用者のニーズとサービス提供者の燃え尽き	88
第1節 サービス利用者におけるニーズ把握	89
第2節 保健医療福祉従事と Burnout	98
第3節 高齢社会を支える仕組みづくり	110
第9章 周防大島高齢者モデル居住圏構想と福祉分権的多元主義	116
第1節 増大する地方自治体の福祉需要	116
第2節 高齢者モデル居住圏構想と市町村地域福祉計画策定	118
第3節 公務員と専門職と住民の協働	123
第10章 専門職、行政職の保健福祉サービスに対する意識	125
第1節 問題の所在	125
第2節 調査の概要	125
第3節 設問の内容	126
第4節 保健福祉サービスの特徴	128
第5節 専門職、行政職の保健福祉サービスに対する評価意識	130
第11章 高齢者モデル居住圏構想事業と専門職・行政職のモラル（2）	144
第1節 問題の所在	144
第2節 分析枠組の提示	146
第3節 分析結果	149
第4節 解釈と提言	161

第 1 2 章	2 0 0 4 年「大島デルファイ調査」	1 6 2
第 1 節	デルファイ調査	1 6 2
第 2 節	調査の概要	1 6 2
第 3 節	集計結果	1 6 3
第 4 節	調査結果についての若干のコメント	1 8 6
	大島「デルファイ法」アンケート調査票	1 8 9
第 1 3 章	国際公開フォーラム～健康長寿と生涯現役社会づくり～報告書	2 0 5
II.	分担研究報告	4
1.	地域政策と広域行政に関する研究	4
	小川全夫	
	(資料) 前掲 報告書	
2.	福祉教育と啓発に関する研究	6
	前田大作	
	(資料) 前掲 報告書	
3.	福祉実習と福祉現場に関する研究	8
	山本圭介	
	(資料) 前掲 報告書	
4.	N P O ・住民組織の福祉活動に関する研究	1 0
	安立清史	
	(資料) 前掲 報告書	
III.	研究成果の刊行に関する一覧表	1 2
IV.	研究成果の刊行物・別冊	1 4

厚生労働科学研究費補助金（政策科学推進研究事業）

（総括）研究報告書

高齢者モデル居住圏構想の評価研究

（主任）研究者 小川 全夫 九州大学大学院人間環境学研究院教授

研究要旨

日本で最も高齢化の進んだ山口県周防大島郡で、「高齢者モデル居住圏構想」が打出された。この構想は高齢化先進地域における厚生行政を核とした広域的な地域政策である。この構想の下で、公的介護保険、UJIターン対策、生涯現役社会づくりなど広域的な取り組みがなされている。この研究は医療・保健・福祉専門家と行政職の課題解決にむけての取り組みの評価研究を試みるものである。

分担研究者：

前田大作（ルーテル学院大学名誉教授）

山本圭介（山口県立大学社会福祉学部教授

安立清史（九州大学大学院人間環境学研究院助教授）

A. 研究目的

高齢化の著しく進んだ山口県周防大島地域における厚生行政を核とした広域行政の取り組みとしての「周防大島高齢者モデル居住圏構想」について、政策評価、プログラム評価、サービス評価、教育評価などの面から研究する。

B. 研究方法

既存資料の二次分析、ヒヤリング、アンケート調査、行政統計分析など質的、数量的評価調査のトライアングレーションによる。

（倫理面への配慮）

アンケートについては統計処理により、ケースは匿名化するなどの配慮をしている。

C. 研究成果

デルファイ法による医療・保健・福祉専門職と行政職のアンケートは780の配布に対して273の回収を得て統計分析を行った。また関係者からのヒヤリングを行った。さらに国際公開フォーラムを開催して、昨年度の研究結果を住民及び関係者の発表した。

D. 考察

広域的取り組みの面では、関係4町が平成16年10月に広域合併することになり、公的介護保険の導入において先駆的に取り組んだ広域行政の試みが身を結び、新町建設計画でも「高齢者モデル居住圏構想」の理念が引き継がれた。

実験的取り組みとして試行された各種事業のうち、要介護老人向けの事業のほとんどが公的介護保険制度の関係で広域連合に引き継がれた。虚弱高齢者にむけた事業は、IT利用のサービス構築、ボランティアの組織化、地域通貨の実験など多様な展開を示

し、その中のいくつかは継続的に引き継がれている。さらに元気高齢者にむけた事業は、「生涯現役社会づくり」の試みとして、都市住民との協働農園、生きがい労働施設などを設置しながら、模索が続いている。またUJIターン対策に絡んだ空家情報提供システムや地域交通システムなど、過疎地域としての整備計画にも着手した。これらの広域事業、実験事業は、広域合併に伴って、見直しの時期に入っている。

E. 結論

「周防大島高齢者モデル居住圏構想」は、10年間の計画として立案されたが、広域合併の急進展により、その歴史的使命は新町に引き継がれることになる。人口高齢化に伴うインアクティビティ（不活性化）状況をいかにしてアクティベーションあるいはアクティベーション（活性化）するかという課題に対して、先駆的の取り組んだこの構想は、数々の示唆を与えたといえる。公的介護保険制度の導入が周防大島における高齢者の居住条件を大幅に改善し、多くの専門家たちが仕事として従事できる体制を構築できたこと、「生涯現役社会づくり」の実証地域として地位を確立したことなどは、大きな成果といえる。残された課題は、高齢者の多い地域における住民参加をどのように進めるかという方法の模索である。新町は、村地域福祉計画や次世代対策という取組みを問われることになるだろう。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

小川全夫、2003年、『高齢者モデル居住圏構想の評価研究』厚生労働科学研究費補助金政策科学推進研究事業平成14年度総括研究報告書。

小川全夫、2003年、「わが国の高齢化の現状：active ageingをめざして」、『老年精神医学雑誌』、Vol.14、841-846、ワールドプランニング。

小川全夫、2003年、「市町村で地域福祉計画を立てる意味はなにか」、『自治研やまぐち』、No.53、2-11。

小川全夫、2004年、「高齢者サービスの整備と高齢者の地理的移動の関係についての研究」、科学研究費補助金基盤研究(C)(2)報告書。

前田大作、2003年、「Active Ageingを目指して：社会参加、相互扶助の可能性の進め方を考える」、『老年精神医学雑誌』、Vol.14、847-852、ワールドプランニング。

安立清史、2003年、「高齢者支援とNPO—介護保険のもとでのNPOの展開」、『現代社会学研究』vol.16,3-24、北海道社会学会。Adachi, Kiyoshi, 2004. Japan's Nonprofit Sector and the Care Non profits. 『共生社会学』No.4, 1-15. 九州大学人間環境学研究院。

2. 学会発表

小川全夫、前田大作、安立清史、2003年、「健康長寿から生涯現役へ：高齢者モデル居住圏構想の評価」、第45回日本老年社会学会大会（老年社会科学VOL.25,NO.2）

小川全夫、2003年、「老年社会科学よりみた老年者（高齢者の生き方）」、第26回日本医学会総会（学術講演記録集CD-ROM）。

Ogawa, Takeo. 2003. "Japanese Rural Ageing in Transition: Evaluation of the Model Plan of Habitation for Older Persons." The 7th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology. Tokyo.

Maeda, Daisaku. 2003. "Is Intergenerational Conflict Inevitable in Highly Aged Society?: Aiming at Achieving a State of Dynamic Equilibrium" The 11th International Congress of the International Psychogeriatric Association. Chicago.

Maeda, Daisaku. 2003. "Issues and Outcomes of Cross-cultural Study in the Field of Social Gerontology." The 7th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology. Tokyo.

Maeda, Daisaku. 2003. "Societal Filial Piety has made Individual Filial Piety much less Important in Contemporary Japan." The 7th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology. Tokyo.

H 知的財産権の出願・登録状況
なし

厚生労働科学研究費補助金（政策科学推進研究事業）

（分担）研究報告書

地域政策と広域行政に関する研究

（主任）研究者 小川 全夫 九州大学大学院人間環境学研究院教授

研究要旨

日本で最も高齢化の進んだ山口県周防大島郡4町と山口県の共同で、「高齢者モデル居住圏構想」が打出された。この構想は高齢化先進地域における厚生行政を核とした広域的な地域政策である。公的介護保険制度の要介護認定審査会の共同設置を端緒として、やがて広域連合へと発展し、いよいよ平成16年秋には広域合併することになり、構想の期間10年の半ばにおいて、構想の歴史的使命は新町に引き継がれることが判明した。

A. 研究目的

高齢化の著しく進んだ山口県周防大島地域における厚生行政を核とした広域行政の取組みとしての「周防大島高齢者モデル居住圏構想」について、政策評価・事業評価の面から研究する。

B. 研究方法

既存資料の二次分析、ヒヤリング、アンケート調査、行政統計分析など質的、数量的評価調査のトライアングレーションによる。

（倫理面への配慮）

アンケートについては統計処理により、ケースは匿名化するなどの配慮をしている。

C. 研究成果

デルファイ法による医療・保健・福祉専門職と行政職のアンケートは780の配布に対して273の回収を得て統計分析を行った。また関係者からのヒヤリングを行った。さらに国際公開フォーラムを開催して、昨

年度の研究結果を住民及び関係者にむけて発表した。その結果の分析等を通じて、転機にさしかかっている構想と、それに対する行政職・専門職の共通認識と偏差が明らかになった。

D. 考察

広域的取組みの面では、関係4町が平成16年10月に広域合併することになり、公的介護保険の導入において先駆的に取り組んだ広域行政の試みが身を結び、新町建設計画でも「高齢者モデル居住圏構想」の理念が引き継がれた。

元気高齢者にむけた事業は、「生涯現役社会づくり」の試みとして、都市住民との協働農園、生きがい労働施設などを設置しながら、模索が続いている。またUJIターン対策に絡んだ空家情報提供システムや地域交通システムなど、過疎地域としての整備計画にも着手した。

これらの広域的事業は、広域合併に伴って、見直しの時期に入っているといえる